漂客談奇

862
1

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1
ガラス使用

862
1
67

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1

ガラス使用

862-1
(67)

漂客談奇

第一信

往年異域に漂流の朝鮮人作國官川部
宮作浦漁人作義四人幡多郡中ノ
濱百姓弥三人長崎に於て清國船に
出会ひ帰国之途に就き安南国に
漂着し事及事実如左

一 私共三人去ル天保十二年三月香港表重物買
寅年長崎表へ入中合ひ二艘之大漁船に白米之外
諸用之品を積出帆ス十日目に清国之内真漂
ス沖どんどん中流ひて縄を切り船を捨ル

[illegible]百八十の沖にて[illegible]を夜を明し
十六日六日伊豆の沖に漁事仕候て[illegible]
井田に白浪たち[illegible]
指山に岬十[illegible]里沖に[illegible]漁事仕候[illegible]
北風吹起り[illegible]
[illegible]集り[illegible]魚の群を見付[illegible]縄に掛[illegible]
年の新色[illegible]財[illegible]
北の[illegible]に[illegible]
[illegible]
[illegible]

此事者とかくて人に語る事なかれ九州とても名の所
なるを人に知られぬ様に必ず語るべからず流れ
出を絶まて秋佛が行きて日の少き小河流れ出る
一つの小河なる岩石を風波激しく飛れ動く
岩石なる故を新たに作漂流をなして磯辺の岩石
なるものを縄を以て結び船を寄せ置て
置て出日に出船一同憤怒船頭波浪出て切り抜
どを以漕ぎ出る故の岩石なし抜損じ出船
破れ抜損じ出船を流れみ流れいて流
流れて流れ人の行くを不知なる岩石等
類生涯なる如何とも出船一同元来出
船の和尚出船九所の岩を漂流出船
引き張り出船隨分膳を養ひ命を頻小魚を
出数張り蓋に水を出の同り流れ来を最出
破損し加波の打上り櫛を出不通武を雨の流れ来
るを食餌出を出を引出
又思ひ出ることなけれとて日を送る後
氣作出船時分波九月沖漂に出船
まく上り武日出船一万漂出遠波より
上て猪口峠岬を撃三日下着り出
出を置たる古井の如く出出
へ出後形出船見を人語と中亀日出百漂

南へ出帆せんとせしに重助彼等の船を繋ぎ洞中に乗り
込ませ其九助ハ[illegible]ヤセラトロエ兵重助の者
船を繋ぎ[illegible]又[illegible]二日潮ニ入ハ男を船に乗せ
毎日一回ニ食物を渡ハ最早六月ニ成ル一時ハ
二百人を乗せ二日半後の暁小右ヱ門南へ漕ぐる
帆船一艘成ルを見て[illegible]行船
でしと人ハ[illegible]ハ[illegible]大なる[illegible]
西へ舵を揚破損の船屑小板類をつなぎ合せ拵ル
漂流人[illegible]彼船ハ小舟式艘
ハ[illegible]潮に西へ漕ぎ[illegible]笠ハ拵ハ[illegible]大ニ喜ひ
見ハ[illegible]拵ハ[illegible]荒波ニ[illegible]船

ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

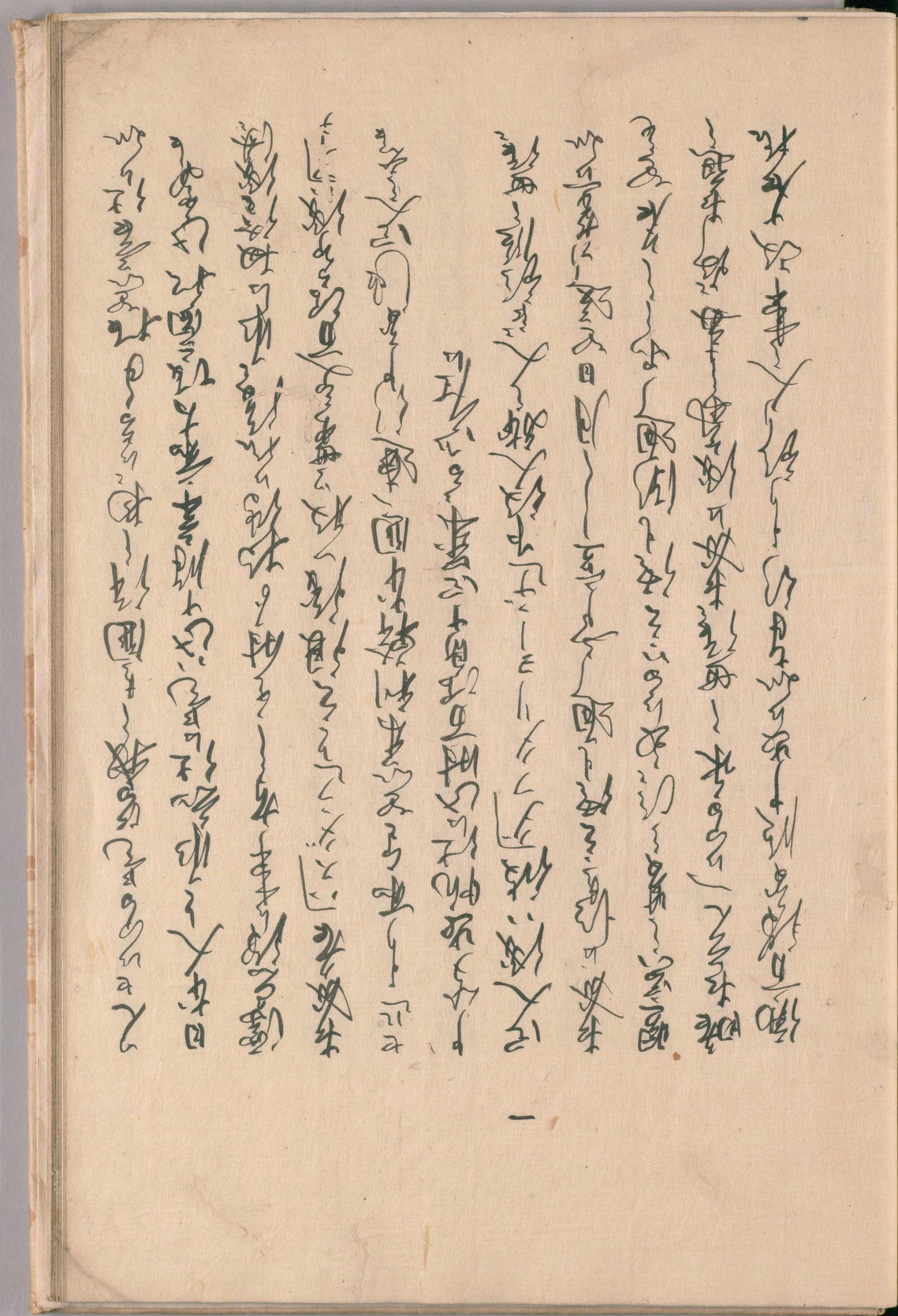
三十間幅六百斗の帆柱を建て、船の第一人二十度
余を生じ、ひしゃくを船の外へ投げ、夢を扱る薬を筒に入れ
て投げ、其夫れ抱き、彼人又船に取り乗る
和尚を二人、船に乗せ、其れ抱き、
抱き、船の又中を中へ通す人を、漕ぎ方を船
取入れ、二日後日を経て、焼米豚の干物をかく
て、異国船を大に制し、小船に乗り、
小船に乗る船を、船の中に初め小舟を漕ぎ
と和人、漂流人方に、漁師
有る人、人数を又、取出し、北米利
幹マセッーツ国に、縣船して

同リョンフイナセル」と、
と、獲船中、海中に、
船、国「ウワホー」と、「ハナロ」と、
び、漂、国船、漂、北米利幹、
人、「クリョーデ」と、人、船、
び、人、船、人、船、国、船、
う、地、一枚、日、
頭、縣、人、他、
を、船、
多、船、
二十切、米利、一片、船、文、船、

帝國

国立国会図書館　タイトル『漁客談奇』　請求記号 862-1

ガラス使用



言葉を富小を作る紀醫師をもつて養生を作り藥を演ぜ
劇藥〳〵拵を拵出〳〵二月終に紀結果ミシパレカ
とも作る船を人有〳〵皆苦難〳〵作る事を出作
相を作る所で仕勘定に所り所拵相を人「カニ子ラ工」
不〳〵難〳〵に國〳〵風俗雜進や法華宗〳〵事を
出る所を出る拵進も墓を結ぶ所を二人
ツリナ」と中人〳〵養月より所を出る所〳〵殿様
キンカケヨリ」と中人ハナロノ濱より迎えとして出る糸
ツリナ」〳〵船止留せ〳〵し所を出る事〳〵方
〳〵俄熱に拵出る所を出る〳〵の通を中止何年力〳〵耕
作を耕作〳〵百姓漁事出る所を濱を出る所を石と

拵「ツリナ」と作る紀醫師を度「ツリナ」と田地
配分に所り出る所を合濱辺〳〵明き地上形〳〵家を
建耕作漁事出拵形を限り貢物を拵り中且村
役人拵〳〵不〳〵人別帳〳〵書〳〵六十五軒〳〵〳〵〳〵
一枚〳〵役人と名書に作法に拵出る及作
拵ハ皆苦〳〵所る隨分能出事作道具ハ作る樹を
作る通拵鞭家作藏人の年貢を納めハ出を出る
辻の通年貢〳〵不拵年貢を遣り出
年貢を奪作彼作作拵〳〵〳〵ミシパレカ」方〳〵出拵糸
拵作「ショレニ」と中る法法〳〵拵事出を辞紀中
所「ユーモニ」と作る紀醫師を度方を入出拵やとも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

自ら上陸すべし船を後に回し乳母養育を
託キヤンブンコーコシ同帆を
[illegible]年二月廿日[illegible]
[illegible]
コシ[illegible]
[illegible]
と呼ぶ[illegible]人[illegible]
ブンカーコシ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
測量[illegible]
[illegible]
和[illegible]
[illegible]
[illegible]

成る者の出来る所は日本の沖百里外の所を東経一百度半に位する東のウワホーク島にて出る者にて百里の所に落れ東の方接きナバケイトーの国エシケと云う所に新しき島国にて二十里外三十七八度に有る入江清き人物を亞細亞しめくる家類能く英吉利しめくこと能わイキリスより来りしと云ふ三十日半清国新水を問へ度と云ふ南アメリカ大地岬を廻り北米利幹マセッセーッ国に白サアヘーブンと云う港に帆止し有フイナセル住居し有る所に留まる国民私利ヨヲカと云

都小屋皆新しく高義に出る百姓を私大工アレンと云人の娘デエシと云女師匠と共に新に建る家を築き筆例小お習ひ出る日半にフイナセル住書と要り連れ帰り清国より又異外り隔たるシカントチと云る国島実来る川移り皆住居し有り風俗共に同様にして行き度に国年十月江アンレと云人に有る家国理測量し法導を教へ入門仕り暦年度の資金右級行法国年七月フイナセル又縣源寺に貴ハナヨンマホ国を彫り度フイナセル無と共に書を与へ其書に人骨国に有る事にて無と共に書し娘と共に人骨国に有る事にて無と共に書チヨンマと云百姓所と

事ニ付フイナセルヨリ外ニ無之ニ付十月廿五日ヨリアルバアトニ人前件因れ導ニ付相和ル者又入門仕置ニ付
二月迄仮行ニ仕和フイナセルヨリ外ニ無之又サアヘー
ブン（ヨリハセトニ）相屋（ヨリ子ニ）
ニ付又シカント子ッキのフイナセル宅ニ立寄リ海
筆御不相者ニ付置年ノ年又右相屋ニ付ニ成
其二月デヘストニ人ニ付和歌ノ日所ニ出帆
西洋ニ方東（ノリ半ウエシトアイントヨリ）ニ帆仕
薪水ニ付（カナリヤの洋ニ通リ南ノリ英望峰ニ廻リ
アンシダ（ビシトニ）ニ為ニ捕ニ出ノリ
シヤワの海ニ入タイモウニ因コウビヤントニ為ル

為帆仕為ニ人相皆迷所ニ付二十日
外リ洋面薪水ニ付（成ニ）ノリ出ル東ヘ捕ニ新ブイ
子ヤニ海ニ為ニ捕ニ仕ニ人ニ又迷所
ニ為ニ形ニ相ニ捕ニ白ニ人ニ男女ニ為ニ那ニ
出ニ我ニ海ニ為ニ岸ニ人ニ食ニ為ニ昭ニ下ニ
本ノ用ニ付ニ為ニ為ニ為

人ヲ雇ヒ仕立ヲ通シ[illegible]ヲ仕立ヲ何ヲ南ノ[illegible]
ヲ尊ミ[illegible]方ノ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
ノ南ヘ[illegible]十月初ツカヒ[illegible]ヲ帆重[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

[illegible]サアヘーブン港ニ帰帆仕候
実ニ辺境ノ地ニ[illegible]アメリカ
帰り[illegible]国ノ[illegible]書物ヲ[illegible]女ト
[illegible]ノ首ヲ[illegible]
[illegible]ト称シ[illegible]日本ノ[illegible]
知ル人ナキ者ハ[illegible]金山ニ向ヒ
[illegible]相[illegible]
[illegible]ヤ清ヲ通リ南アメリカ[illegible]岬ヲ廻リ[illegible]人乗ノ[illegible]
八人ノ女ト七人[illegible]南アメリカノ国ニ多マアナ[illegible]
ライスハニヤ[illegible]清船[illegible]
[illegible]成ル月国帆ノ[illegible]北アメリカサンフランセシコ

所看帆ノ所ハ清ノ大湾ニ[illegible]
後年豊後ヲ出シ[illegible]
[illegible]ヤクマンドトニ[illegible]
[illegible]山ニ[illegible]
北川ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』請求記号 862-1

がうス使用

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1

ガラス使用

[illegible]
アリ（相撲ヲトル）ニ[illegible]サシセウエルトキ米利堅人
[illegible]三人ヲ琉球道別[illegible]
[illegible]
[illegible]アリ[illegible]
三人ヲ清帝ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
中[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
又羽織袴入絵草紙[illegible]
[illegible]
[illegible]

清国人ハ清ト唱ヘ中ハ中国風ニ清海ニ通リ下ノ国ヲ経テ七月ナ[illegible]ニ[illegible]ク日ニ[illegible]ハ清ト称シ相模地ニ[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後ハ唯一人ノ王ニ仕ヘ[illegible]

[illegible]テ二百枚ヲ[illegible]

[illegible]ハ唯今ノ王ハ名ヲ[illegible]テ王ト[illegible]

[illegible]ト異ナリ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中に髪いつさゝ毛ゝる焼金をうい鍋を焼きりゝと舞ハセ
其上に長崎の紙法を以て其上に第一の海の子うとゝ云アヽン
ぺう花ゝ恵をい編み笠を以て従来法

一　女の髪形の簡単なる毒なるかつを稽ゝ首うゆゝまう通り
革の帯う敷ハメリヤスト稽姫ゝ従来
ゝ時大なる風呂敷ゝ和ゝ羅紗ゝ角を打落ゝ着ゝ
表ゝ裏ゝ色ゝ付ゝ袖ゝ袖ゝ付ゝ袖ゝ長ゝ袖ゝ長ゝ従来法男ハ
笠ゝ風通ひゝ長ゝ笠ゝ男女同ゝ葉を以
製ゝ作ゝ稽ゝ長ゝ笠

一　マセツーツ漬ハ第四和稽漬の糸ゝ長ゝ葉葉ゝ長ゝ
遊女ハ丸髪ゝ長ゝ高ゝ島ゝ稽ゝ長ゝ三里ゝ海

南を又一ぺッホウとゝ北をサァヘーブこゝゝ其間稽高新
北ゝ大稽ゝ従来法中ハ一ッ漂流ゝ長ゝ北稽長サ
四千南ゝ稽長サ四千ゝ其稽中央ゝ山ゝ
川稽ゝ法ゝ長ゝ大ゝ稽ゝ従来ゝ稽ゝ法ゝ
第四和稽ゝ四ゝ分ゝ酒ゝ長ゝ稽ゝ法ゝ
ゝ同ゝ味ゝ脂ゝ右ゝ稽ゝ法ゝ
場ゝ産ゝ産ゝ者ゝ従来ゝ法ゝ
稽ゝ物見ゝ長ゝ

一　第四ゝ人ゝ人ゝ金ゝ長ゝ最第ゝ産ゝ従来ゝ時ゝ稽ゝ長
ゝ稽ゝ物ゝ恵ゝ勝ゝ長ゝ四ゝ従来ゝ
年ゝ生ゝ稽ゝ長ゝ年ゝ年ゝ金ゝ長ゝ

仕様〻別紙の大意に決定東織作琉球国を兼
ねる軍船の所に何者とも分り難き者に
毎年六月四日吉例を以人〻に軍懐兼帯中を
とり出し百姓年貢米を利分米利幹にイギリス人に
開き国民度イギリスの属国たる事に成り
カラ人一回兼月の仕組大合義を以月四日に大利を
はなる今の殿治と盡り出国て古例を以病を
毎月寺院作るる十二体に法を語て等中に親を
敬マラ属て人を新属て人を書を授て属て
作属て人を新て属て人を新属て
勝あること者必捕られ罪死下に乗りは

一 異人皆大の国に円義を養育して其中殺害
人〻の物を奪ひ仕事を為罪の強盗より年限
を殺害に成り徴用新獄の人〻家産を
人を殺害に死刑に行ひ捕を立てこれを
文語み学ラトクノセンを捕を捕者罪人を
おを志を殺ひ出見及いふ法
一 ふと事を仕ふ者に参れ捕を獄
場もと〻ひ仕事に而形及ひ作

第二續

烏丸殿北業利釋尼之器相為形種子等為
[illegible]日暮に[illegible]りに[illegible]
及事[illegible]

一　業利釋尼知り[illegible]
固より[illegible]
[illegible]
大小四[illegible]

一　[illegible]
相[illegible]親[illegible]
面[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

一　[illegible]

一　文字ハ横文字二十二ヶ[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1

ガラス使用

一　家作ハ西洋作ニ倣ヒ煉瓦ヲ用ヒ二階
もあり〻日本〻家作ニ屋曲ヲ中ニ置キ其
間家中ニ庭ハ　庭ハ焼石ニ白砂ヲ敷キ石ヲ
焼製作ニ行ハレ　ヲ腰掛ヲ
置ク

一　器具ハ椅子ハ製ニ出来ル焼物　灯ハ硝子ニ
風ハ鉄ニ用ヒ　切ハ木ニ作リ
ハ中ニ絵ヲ作リ　ハ
作リ　ヲ
藏ヲ拵ヘ

一　粧ヒハ素ヨリ和ハ髪ハ結ヒ
ヒ　ル
種痘ハ行ハ
遊ハ拵ヘ拵ヘ日本ニ
ハ有ル
酒ハ
ヒ

一　料理屋ハ婦人ハ
ヒ

一　ビヤナトモ琴パンヲヨウトモ三味線セルコトモ
西洋流行新ヒ

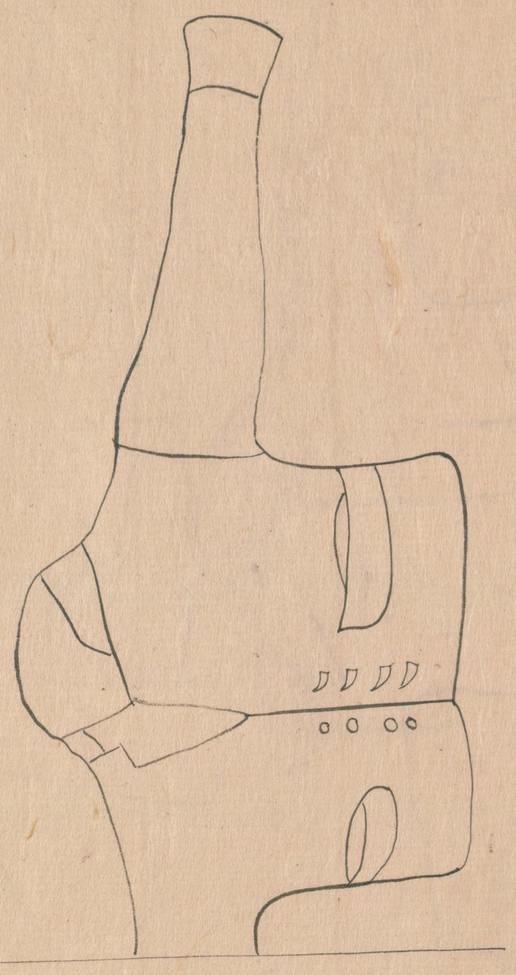
又朝霞ニ成ル海ハ雖ト高矢ハ弁ニ成ルヨリハ曲ル
ヲ
ハ
一
舟ハ纜ヲ解羅巴ニ帰ル俗ハ印度ニ成ル
別遠ハ
ヲ
ハ
ハ
ハ
一
陸ハ運送馬ヲ用ヒ
山ヲ越ル
ハ
ハ
ハ

一 亦紅海水ニ色亦ハ海底ノ形態ニ由ルモノ
ニシテ亦ハ紅海黑海ト稱シ
一 米利幹ニ天ヲヘブントヨ地ヲカラアン日々ヲシヤン月ヲ
星ヒメアヲ春シブレン夏シヤマ秋ヲトン冬ワインダ東イシン
西ウエシン南シヤウス北ナウス乾ノヲヘン押シヤウヘース良ノラビイ
入與シヤウイーシン人ビイブル男メアン女ウメン親エフン子ヒルレン
妻ウワエス耳イヤ目アイ鼻ノラスロマウスチハアンダ足レイキ男
陰アレカ女陰アシン画テイ米デイン酒フニム茶テエ山ヲアンハルハ
海シイ井ハヤロ唐ナヤイン天笠イニデヤ日本セツパン米利幹モノ
リケンとヨーロ
一 爲王府ニ天ヲウニ地レツプ日ファ月マイテ星ホッー海メイ

氷ワイ人カナ男カナカデ女ヲワヒ子酒イスラレマ煙草バカ蕪ハ
タ男ハ若ヨヘイともヘンとも女ハハイともマイとヨロ

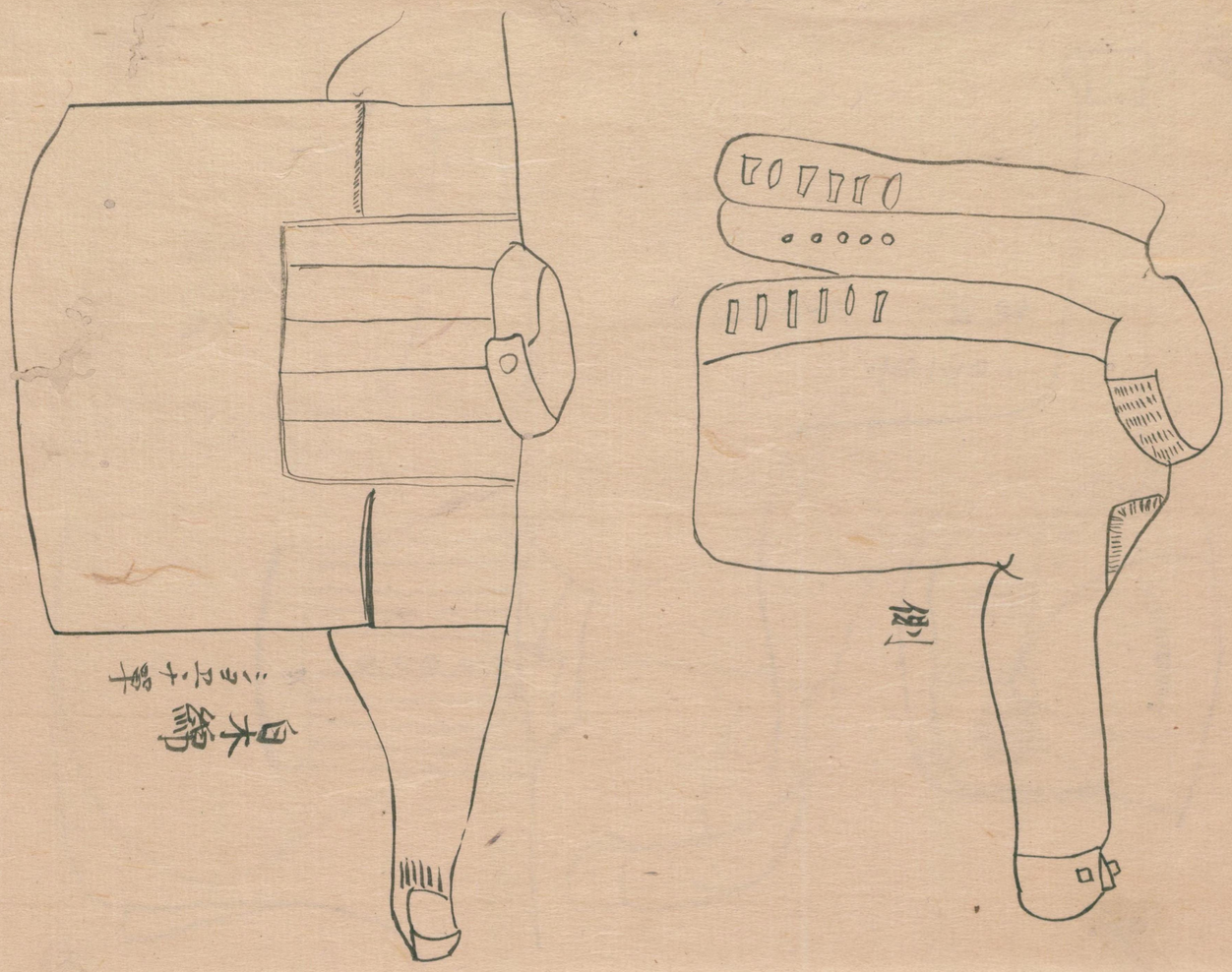
右之外所々可相尋兼有之候得共悠々十一年ニ談話
多々一日ニ乗り候事故疎略其ぞく上海外之儀也
不案内候間唯漂客と申ニ随ひ相記ヨリ紀彼ノ助
相成候者ハ識志之者述ヲ得可申候迄

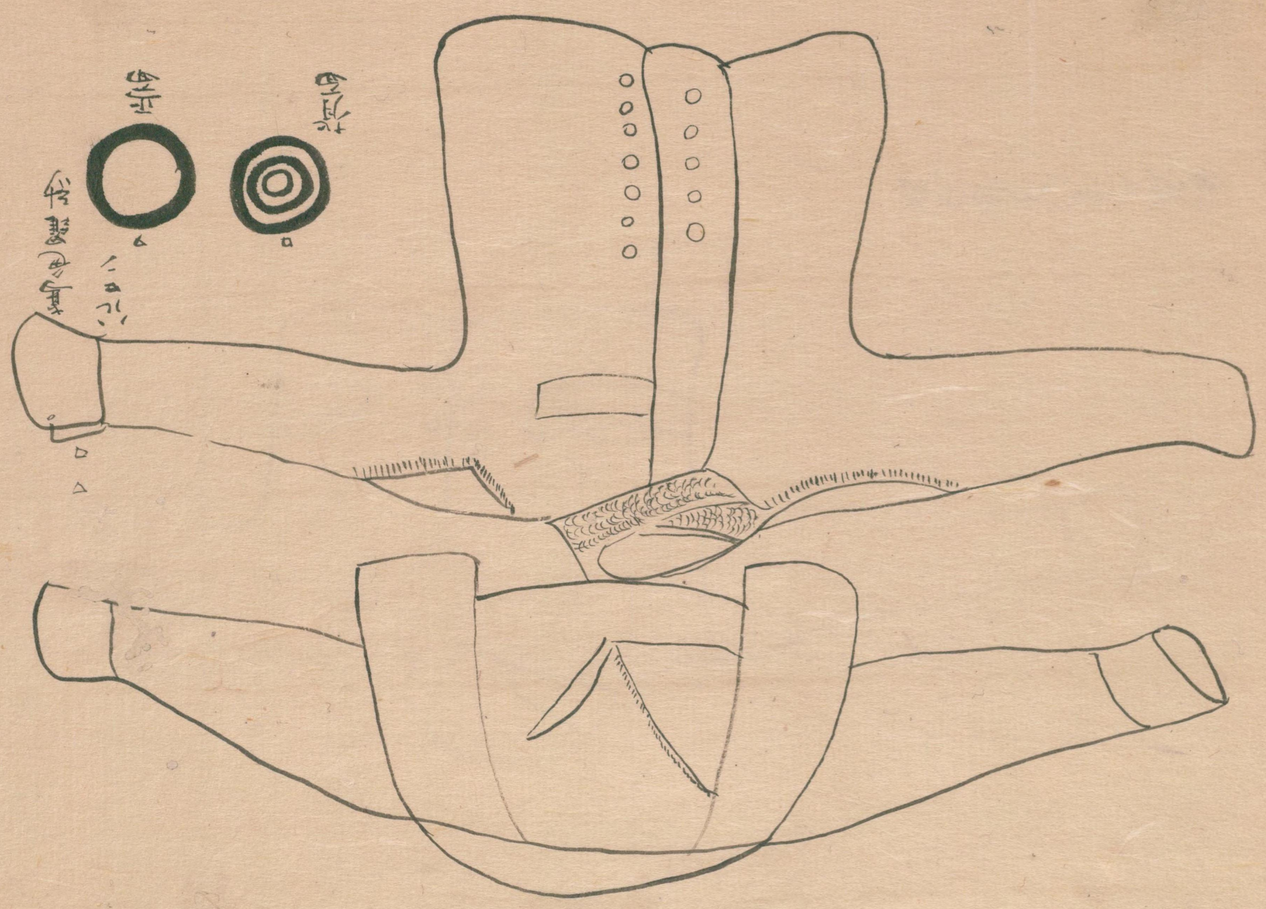
傳藏五寶門不寶之服



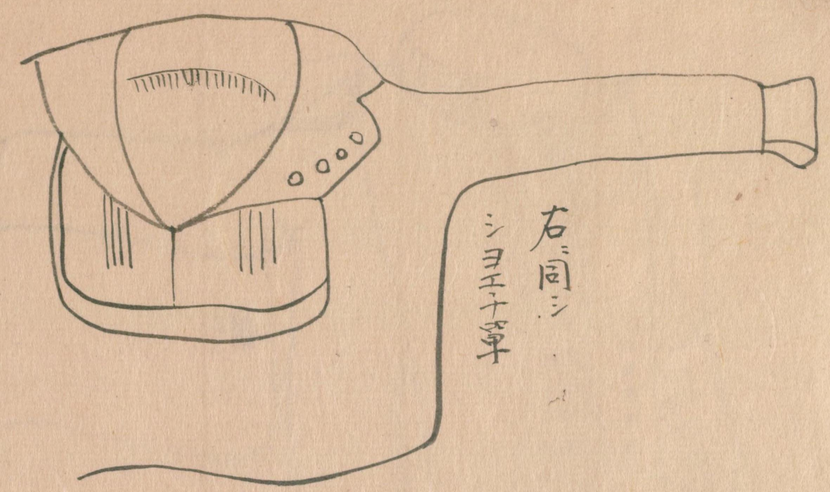
国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』 請求記号 862-1

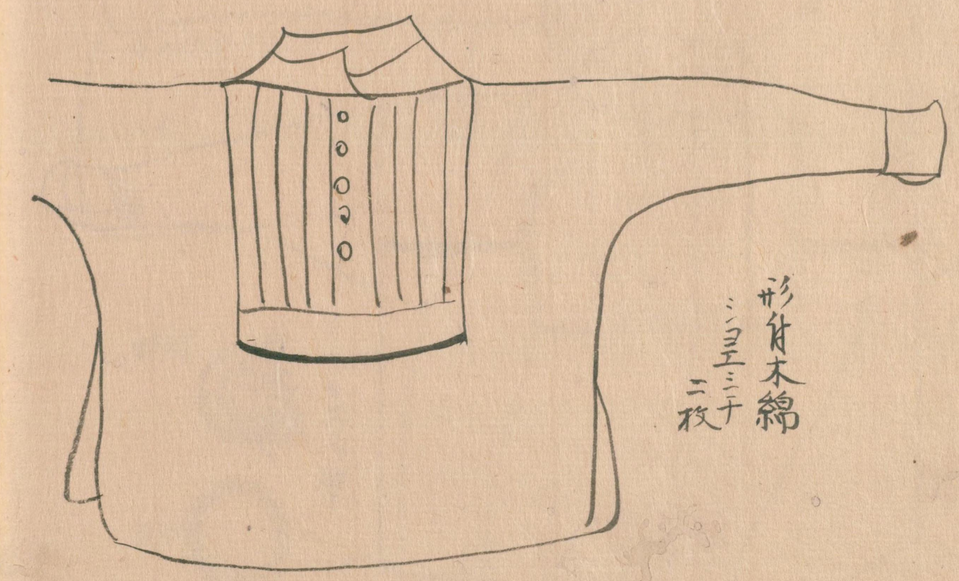
ガラス使用





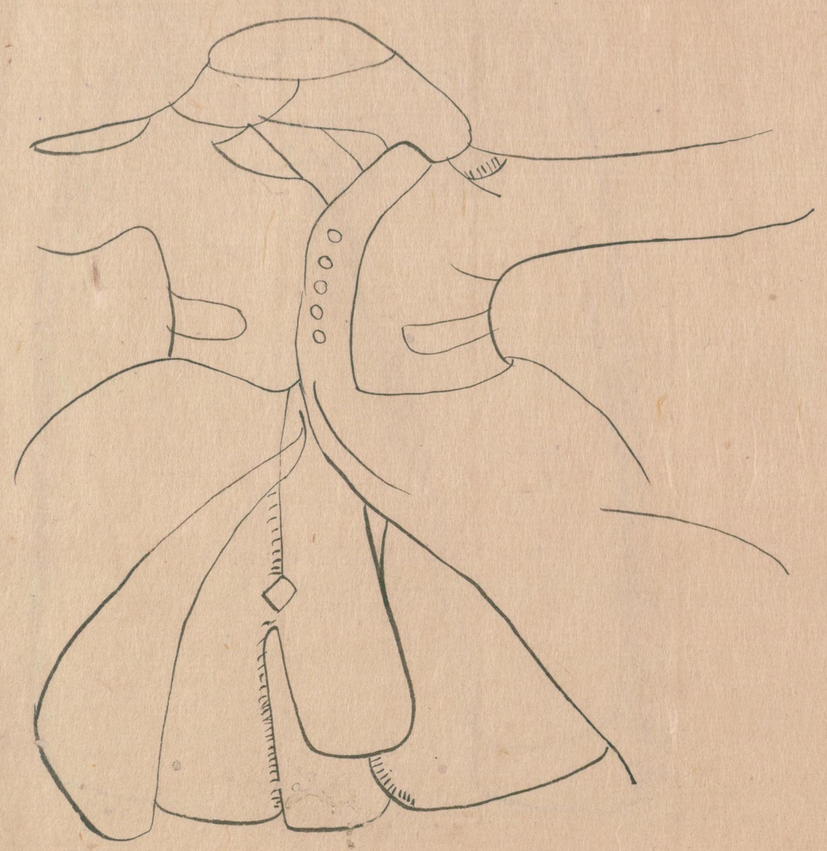
国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1
ガラス使用

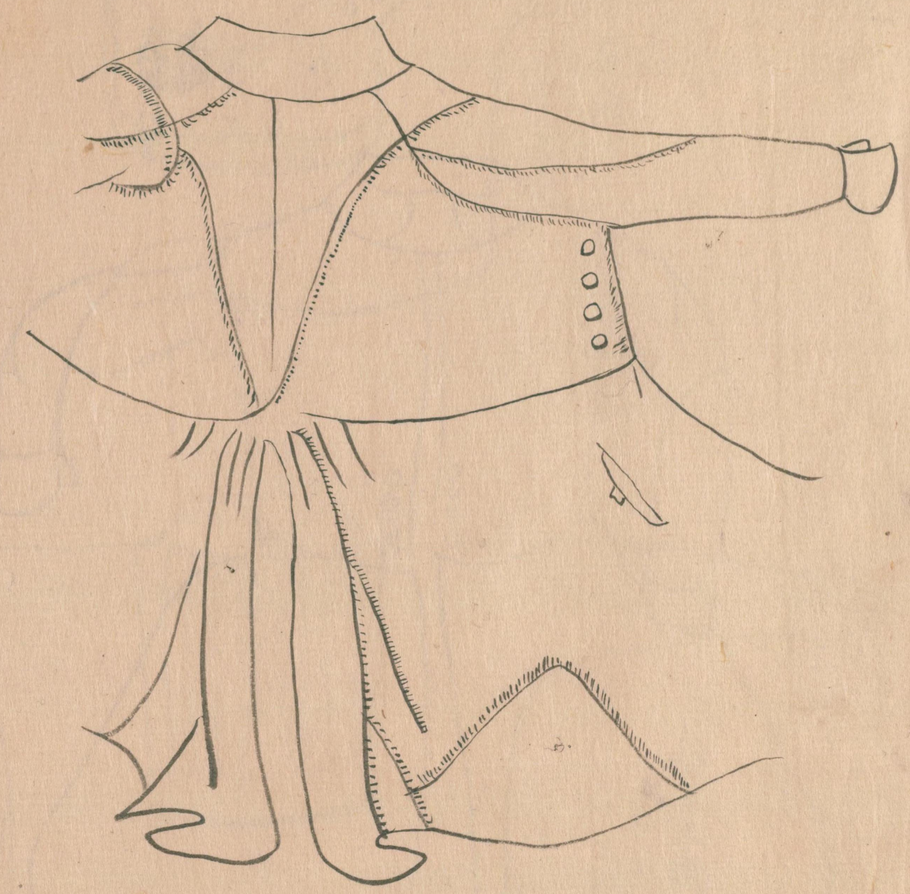




国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』 請求記号 862-1
ガラス使用

馬色羅紗
チヤケト

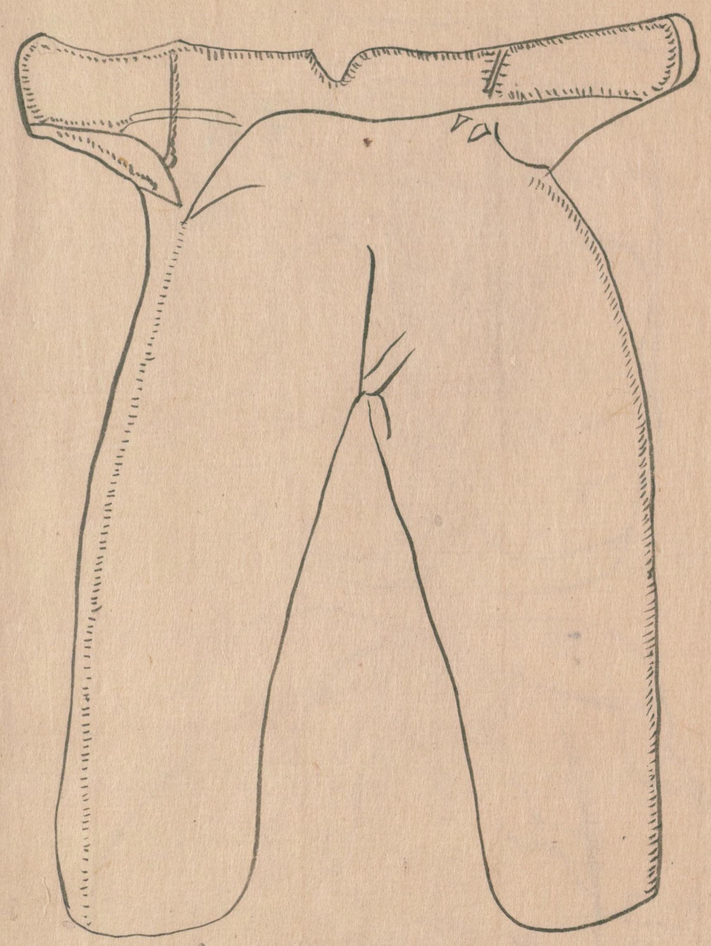


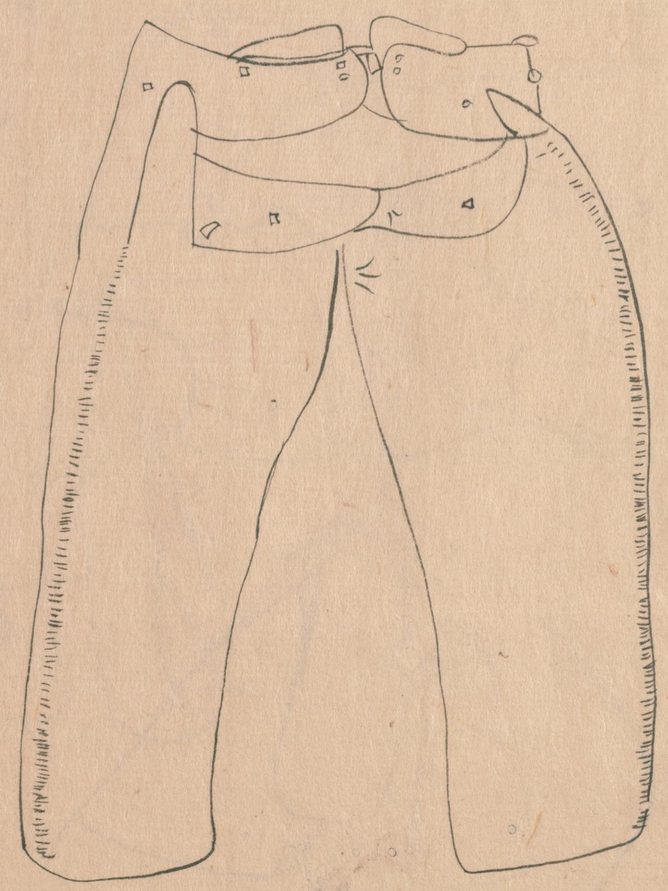


国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1

ガラス使用

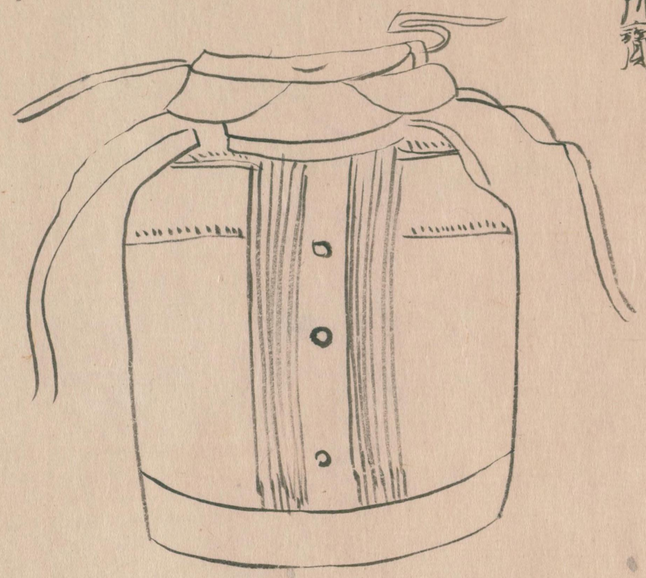
羅紗
ヅボンニ枚
又
ツレニ枚

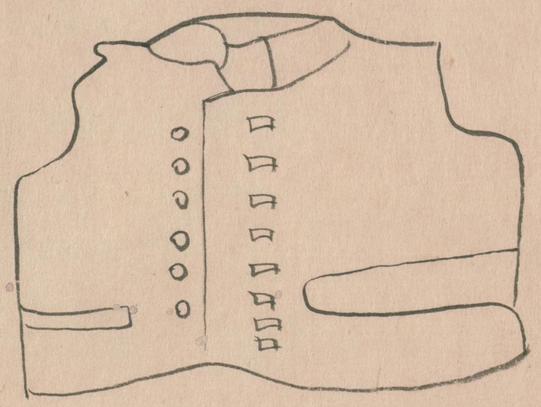


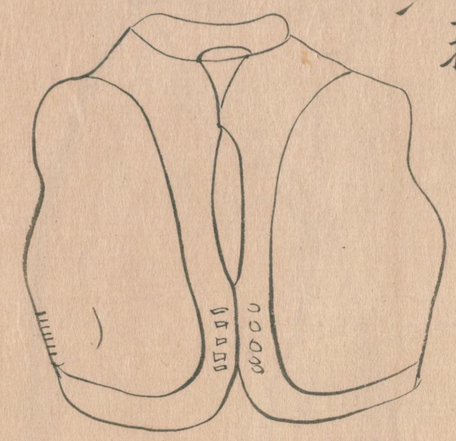


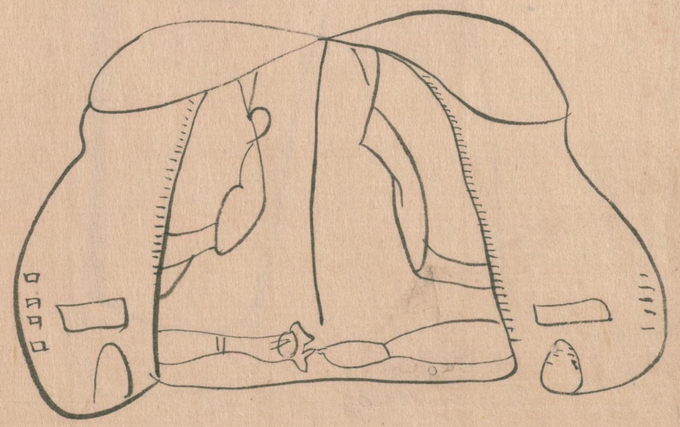
国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』 請求記号 862-1

ガラス使用







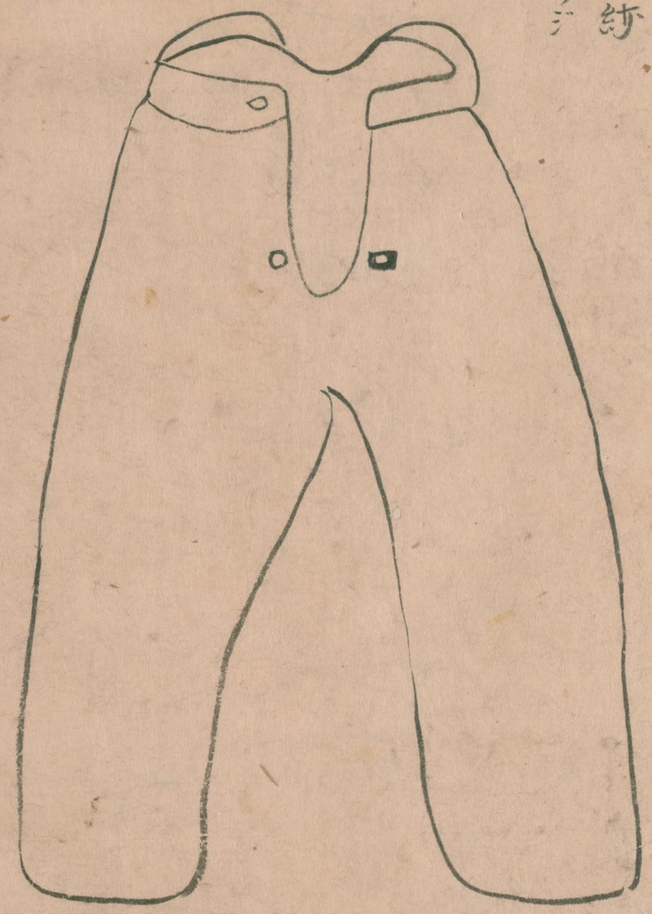


国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1

ガラス使用

862
1

紅羅紗
ツロウジ



萬次郎と彦藏

〔一〕

入澤達吉

德川幕府が鎖國政策を執り、一切大船巨船を造ることを禁じて以來、船なるものは、たゞ日本近海の交通運輸と、近海漁業の用を足すだけに止まつてゐた。それでも暴風のため難破し、あるひは漂流することも珍しくはなかつた。その遭難者の多數は魚腹に葬られたのであらうが、中には南支那、南洋、ハワイ、朝鮮、露領地方または千島方面に漂着し、そのまゝ本國に歸還せず、その地に土着して、一切消息を絶つた者もある。あるひはまた無人島に漂着して、つひに餓死した者もあらう。たゞ稀有の幸運に恵まれたものが、本國に歸還したのであつた。その歸還者に對して、幕府時代の有司はなるべく外國の事情を他人に語ることを避けしめたので、體のよい終身禁錮の刑に處せられた狀態であつた。露國へ漂流して歸つた神昌丸の幸太夫、儀吉、督乘丸の重吉、天歸丸の太郎兵衛及び南洋から歸つた德永丸の儀兵衛等は皆その例であつた。

併し新井白石以來、西洋の事情を知らんとする識者も出で、漂流民や、來朝の西洋人について外國のことを聞き取つたものもないではない。その後開國の氣運が漸次促進され、日本と諸外國との間にしば〳〵交渉が起らんとしつゝあるので、當時の先覺者中にも、一段その必要に氣づいた矢先、いづれも十年間米國にあつて文明の空氣を呼吸した二人の漂流者が、約十年の間隔をおいて歸還した。この二人が開國當時の日本にあつて、諸般の事物について、邦人に文明の知識を與へたこと多大なるものがあつたのは、まことに不思議の現象であつた。

その第一は土佐の萬次郎であり、第二は播州の彦藏である。

◇

最近に予の先輩であり、畏友である中濱(東一郎)博士は四十年間苦心して材料を蒐集された結果、その先考萬次郎翁の傳を編して出版された。予はこれを讀み多大の興味を覺え、且少からず敬へらるゝ所があつた。

萬次郎は土佐の漫陽の漁夫の子で、十五歲の時、年長の漁夫四名と共に近海に出漁の中、急に暴風が起り、七日間漂流の末、ある無人島に着して上陸し、雨水を飲み、信天翁を捕らへて食し、僅かに飢渴を免れて五ヶ月を經過した時、附近を通り掛かつた外國船に救はれたのである。その船は米國の捕鯨船ジョン・ボーランド號、船長はホイトアイルドといふ人で、時は天保十二年五月九日であつた。この島が八丈島中の島島であつたことは、明治年間に至り、研究して漸くわかつたのである。

捕鯨船上の客となつた漂流者の一行は、その年の暮、ハワイに着したが、その間に萬次郎の才能はつとに船長に認められ、彼一人だけ船長の郷里米國フェヤヘブン町に伴なはれ三年間學校教育を受けた。その後二十歲から世界遍航に出かけ、捕鯨に從事した。彼は太平洋、大西洋、印度洋、南洋等を縱横に航行して海洋の知識をひろめた。またカリフォルニアに入り金山にもゆき、多少の貯蓄を得て短艇一艘をあがなひ、これを冒險號と名づけ、歸朝の準備をした。

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1
ガラス使用

萬次郎と彦藏

〔一〕

入澤達吉

萬次郎はホノルルで當初の漂流者二名をさそひ米國の帆船に短艇を搬へて便乘し、嘉永四年正月、二十五歳で琉球に歸着した、漂流者中の一人は先きに死去し、他の一人はハワイに止まつて、歸國を欲しなかつた、彼等は琉球から薩摩に送られ、島津齊彬公の優遇を受け、更に長崎で數ヶ月の取調べを受けて土佐に歸り、彼は山内容堂公に謁見し、後江戸に出て、幕府の先覺者江川太郎左衛門の知遇を得て幕府の直參に取り立てられ、大いに重用された。彼は米國において学びた航海、造船、測量、遠洋漁業等に關し種々を披瀝して當路に寄與する所が多大であつた、彼は新設の軍艦教授所の教授になり、また米國の航海學の書を翻譯した、佐久間象山は萬次郎が幕府に重用さるゝを見て、外國の事情を知るの必要を一層痛感し、吉田松陰を密遣して米艦に投ずるの決心を促したと傳へられてゐる。

嘉永六年ペルリが來航の時は、日本國中唯一の英語を解する萬次郎彼が無論その通譯に當るべきであつたが、水戸の烈公は彼が永く米國に居て、あるひは内々異圖を抱藏してゐるものならざるやを懸念し、親書を江川に送つて、彼が通譯を阻止したため、オランダ通譯を用ゐ、三たび譯を重ねて漸く談判をした。そのオランダ語たるや、二百五十年前の國際當時のオランダ語そのまゝであつて、近代語は一切理解されなかつたとの事であつた。そのため、書記官のフュースケンをして困惑せしめたことが多大であつたと。

萬延元年正月に幕府は使節を米國に派遣したが、その護衛艦として咸臨丸を送つた。これは全く日本人の手で操縦して米國に往復したものので、萬次郎は實に船長の事務を取つたのである。彼のペトロン江川が世を去つてから、彼も以前の如く意意でなくなり、その後薩摩藩に聘せられたこともあり、また土佐藩のために後藤象次郎を伴なふて上海に行き、汽船を買入れたこともあつた。岩崎彌太郎や坂本龍馬も皆彼の感化を受けたことが少くなかつた。彼はまた幕府の艦隊御用をも拜命した。かつて小笠原開拓のため渡航したことがあつた時、平生彼に推服してゐた大槻磐溪は『百年閑却無人島、破得天荒有此人』の詩を贈つた。

萬次郎はまた越後の一富豪の後援を喜て、捕鯨船をあがなひ捕鯨に從事したが、これは台風にあふて失敗に歸した。蒸機や、寫眞機も初めて彼によつて輸入されたものであり、また日本人で汽車に乘つたものも彼が初めてである。

明治の新政府は萬次郎を開成學校の教授に任用したが普佛戰爭が勃發したので大山巖、品川彌次郎等と共に觀戰のため歐洲に派遣された。その途中彼は米國を通過の際、ブエーヤ（ブンに立寄り、なほ健在であつた船長ホイットフイルドをたづね、二十一年前に漂流して救助され、引續いて教育を受けられたその恩愛を謝した。往年の貧童は今や日本の高官として、遠い異國的光景は、これを想像するだに、何人も愉快の感に打たれないものはあるまい。好事魔多く、萬次郎はロンドン着後、腦部の疾患を得、よんどころなく一行と袂を別ち歸朝したが、その翌年四十五歳の働き盛りで腦溢血にかゝり、つひに全く公生活を辭し、修々自適して明治三十一年まで生き永らへ、その年の秋、七十二歳で歿した。

萬次郎と彦藏

〔三〕

入澤達吉

ある時大學の食堂で、故吉野作造）博士が予に若しアメリカ彦藏の歿年月を知らんかとたづねられた。予は偶然にも、彼が病氣の時友人の紹介で診察した。その友人は神戸に居るから手がゝりがあるといふた。そのうちにペルツ先生、未亡人から、彦の細君や娘が根岸に居ることを聞いたので、委細判明した。日本の文化史上、彦については研究すべきことが多く殘つてゐるので、予があらかじめ先容をなしておいて、明治文化の研究家吉野、尾佐竹兩博士、石井研堂氏、東京日日の花園兼定氏などを伴なうて往訪し、主として彦未亡人から種々の疑問の解説を請うて、大に得る所があつた。彦が日本の新聞の開祖であるといはれてゐるにも拘らず、上海、廣東雖氏に頼んで上下巻とも訂正補綴を願ひ神戸の伊藤長藏氏の費力で新刊が出來し『開國進史アメリカ彦藏自叙傳』と題して、昭和七年に發賣された。さるゝに至つたのである。なほ濱田家には、維新前後の貴人の珍しい寫眞が多數保存されてあり、同伴の寫眞師がその席で海外新聞の表紙などゝ共に寫し取つた。當時兵庫縣知事として彦と親しく交はられた伊藤博文公の衣冠の寫眞があり、その裏に『備四郡播八郡管轄兵庫縣知事從五位下越智博文』と寫してあつたのも面白かつた。

却説、中濱萬次郎が歸朝する一年前、即ち嘉永三年十月に播州濱田村の人、彦藏は十四歳の少年で江戸から歸航に際し、千石積以上の廻船力丸に乘つてゐたが、遠州洋で暴風に遇ひ、五十餘日間漂流して十二月下旬一行十七人無事に米船オークランド號に救はれた。その船は翌年二月桑港に着し漂流者一行は一年前税關の保護の許に生活した。米國はその頃日本に開國を迫らんとしてゐたから、丁度よい手蔓と思ひ、漂流人を厚遇して送還する心組であつたのだ。嘉永五年に至りセント・マリー號といふ軍艦に一行を託して浦賀に送り、ペルリの東洋艦隊に載せて日本に送る計畫であつた。しかるに行違ひが生じ、それが實現せなかつた、そこで彦と治作、繁藏の三人は、一行の世話役の勧誘で、再び米國に赴いたが、殘りの十二人は軍艦サスケハンナ號で上海に連れて行かれた。この船では彼等は甚だしく虐待されたので、上海で日本人の善吉といふものが、ある會社に勤務してゐるといふことを聞き込み、それにすがるつもりで、船を脱走しつひに善吉の好意で、安政元年の夏、芝罘を經て長崎に送つてもらつた。そこで取調べが濟んでから、各々領主に引渡されたが、中には造船の役人などになつたものもあつた。この善吉も尾州のものので、その十數年前に上海に漂着し一度歸國を企て、便船で日本近くまで航行して來たが、撫順の盛んなのに恐れを抱き、再び上海に戻り、永住することになつたのである。

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1

ガラス使用

萬次郎と彦藏

〔四〕

入澤達吉

一行中の船頭藏は前年四月サンドウイッチ島通過の際病死し、また島吉といふものは廣東に居殘り英國公使の料理番となつて歸朝したが、たまゝ〳〵浪人に斬り殺された。サスチリンナ號には仙太郎といふもの一人だけ殘つて居て、嘉永六年六月ペルリが來朝の時一緒に捕貴まで來たが、幕府の官憲を恐れ、甲板に姿を現さなかつたので、また上海に連れ戻された。若しこの時吉田松陰がこの旗艦に飛び乘れば、仙太郎が居たので、ウイリアムよりもよき通譯があつたのであつたが、松陰はこれより九ヶ月後に、ペルリが二度目に來たときの旗艦ポーハタンの甲板に攀ぢ登つたのであつた。

彦は嘉永五年に桑港で或るホテルの皿洗ひになつてゐたとき、たまゝ〳〵漂流人重太郎といふものゝ通譯をしたのが奇緣となり、その才能を認めたサンダースに認められて、その秘書となつたのであつた。彦はこの時いやしき職業から一躍して、登龍門に入つた心地がしたといふてゐるのはもつともことである。この重太郎なるものは新潟のもので、函館から新潟へ歸航の際、津輕海峽から漂流し、千二百石積の船で十二人の水夫が居り、自分は乘合はせたものであつたが、食糧のなくなつたため、外のものは病死または餓死し、自分一人だけになつたとき、米船に救はれて桑港に着したのであつた。

その後彦はサンダースに伴なはれて東部に行き、大統領ピヤースに謁見した。これが邦人が大統領に正式に謁見した嚆矢である。彦は日本に於て初めて電信、ガス燈、汽車を見て驚いた。

後サンダースの郷里ボルチモアで彦は學校に入り、教育を授けられ、安政元年カトリック教會で洗禮を受けジョセフといふ名をもらつた。それ以來JOSEPH HICOと稱することになつた。これは日本の最初以來、カトリック教徒となつた最初のものであつた。その後桑港に歸り、學校に通つてゐたが、當年財界に恐慌が襲うて來て、パトロンのサンダースは破産してしまつたので、彦も無學歴學として、ある會社の書記になつた。サンダースは元來ボルチモアの富豪であつたのだ。その時カリフォルニアの上院議員グインが、彦を米國の官吏に推薦するというて、東部に同伴し、大統領ブキヤナンにも謁見させなどしたが、グインの所業が眞だ不純の動機から來たものであつて、彦はすこぶる迷惑した。彦は安政五年に米國に歸化し、市民權を獲得した。その後彦は友人ブルック大尉の斡旋で支那日本近海測量船の書記に任ぜられ桑港に歸り、やがて上海に赴き、新に組日公使となつたタウンセント・ハリスに會ひ、新任神奈川領事ドールの通譯官に任命され、安政六年六月に神奈川に着いた。漂流してから足掛け十年目に、二十三歳となつて初めてこの時故國の土を踏んだのである。

彦は歸國後、日本語に通ずる日本人は活躍した。英語に通ずる日本人は彦と萬次郎兩人だけであるから、彦は日米修好條約の實施、幕府遣外使節の派遣、魯國海軍士官暗殺事件、米國公使館員ヒュースゲン暗殺事件、水戸浪士英國公使館襲撃事件等幕府の使節齋昇豊後守の渡米については、我咸臨丸は彦の友人ブルック大尉を水先案内に雇入れたから、彦は木村攝津守と勝海舟の間に立つて大いに幕府の勞を取つた。この時彦は咸臨丸にブルック大尉を見送りにゆき、初めて中濱萬次郎に面會したのである。

萬次郎と彦藏

〔五〕

入澤達吉

彦が歸國の時に一つの挿話がある。彦はハリス公使に從つてミシシッピー號に乘込み、まづ長崎に寄港した。甲板には日本人の物貨り、漂流民來て居り、また屢ふた水先案内も日本人であつたが、彦が日本人であるとは誰も知らなかつた。彦は日本語を話すとも一面倒が起るとよくないから、ある時期まで一切禁じられてゐたのであつた。その内米國水兵と日本人の間に喧嘩が起り、これを審判するに、その要領を得るため、士官から通譯を頼まれ、始めて日本語を話したに、日本側の役人の驚くことたとならず、喧嘩の事件はそつちのけで、彦の素性をたづね、どこでそのやうの巧みな日本語を習つたかと問ふたが、自分は紀州米國人であるとて、一切これに答へなかつた。五年後にこの役人――肥前藩の檜山といふ人――に彦は長崎でかいこうし、この時の事を語つて大いに打ち興じたといふ。

文久元年の秋、彦は攘夷熱のため、身邊に危險の迫るを感じ自將來の處世上の考慮もあり、再び渡米し、一年あまりで歸つて、一度蹉跌した米國の通譯官に再任した。この滯米中に世界的大偉人たる大統領アブラヒム・リンカーンに謁見した。その時のことを左の如く書してゐた、威あつて猛からずといふべきか、最も誠實の聞え高く、一たび溫容に接したものは皆これを仰慕する有樣であるといふ云々。

なほこの頃は南北戰爭の時で、彦は人遣ひで南軍の大將と誤認されて、捕縛監禁されたこともあつた。

歸國後、文久三年に長州藩の外國船砲撃事件の際には、彦も職務上米艦ワイオミング號に乘つて馬關砲撃に參加し、觀戰したこともあつた。また彦は譯官を辭して、いよ〳〵實業界に入り、長崎に移住した。

この時佐賀藩のため商業上の斡旋したこともあつた。また木戸孝允、井上馨、伊藤博文等のため米國文化の說明をなし、その委囑により二年間長州のエゼントを勤めたこともあつた。

明治になつてからも、井上馨侯の關係で大藏省に入り、銀行條例を書いたこともあり、また樺太のペルー國船の奴隷解放事件にも盡力した。後に神戸に精米所を建てたが、これも長くは續かなかつた。兎に角彦の商業上の企ては皆失敗に終り、つひに巨富を積むに至らなかつた。しかし維新前後において彼が直接間接に、日本の開國事業に貢獻したことは多大であつた。

明治三十年十二月、中濱萬次郎の死に先だつこと一年、六十一歳を一期として東京で歿した。心臟病が增進したとき、子は一回は品川のゼームス坂のゼームス邸で、一回は本所緑町の自宅で診察したことがあつた。彦に一女子あり、理學博士本間義太郎氏に嫁したが、本間氏は早世した。彦は終りまで米國の國籍にあつたから、彼は青山の外國人墓地に葬られ「淨世夫彦之墓」と題してある。彼の自叙傳は他の歐洲語にも譯出してある。

日本の開國に當り、漂流者の二少年、いづれも十四五歳の漁童舟子が、たまゝ〳〵卓越俊秀であつて、その才能を米國人に認められ、米國において多少の教育を受け、十年間も外國生活をなして歸國し、新文化の曙人に少からず貢與したことは、他に類例のない奇蹟といふべきである。

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』　請求記号 862-1
ガラス使用

862
1

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』 請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『漂客談奇』 請求記号 862-1

ガラス使用